



まちづくりのテーマの一つとして「安全・安心のまちづくり」があります。これは災害に対して「防災マニュアル」や「地域防災計

画」等を作っていくということですが、地域福祉計画により地域の特性を浮き彫りにする作業の中で、それぞれの地域に昔から伝わる災害に対する対処の方法をもう一度検証していけば、自ずと防災マニュアルにもつながってくるものと思えます。

この地域が経済自立できる産業構造を次世代に残していく、住みやすくするためにも、地域の経済形態の再生も必要になってきます。この地域の経済基盤を支えている1次産業が基盤になります。具体的な計画をしながら事業を進めていくつもりです。

こうしたそれぞれの計画を皆さんのご意見やご要望、ご提言をしっかりと私たちが認識をし、それぞれの計画に取り込みながら作っていくため、今回のまちづくり懇談会を企画をさせていただきまして。市民の皆さんと一緒に、新市のまちづくりをしていきたいと考えています。

業を有利に進めていくことのできる過疎債も活用できるようにになりました。過疎債は合併特例債に匹敵、もしくはより有利な部分もあるもので、これを有効に使っていく。いろいろな事業ができます。この「過疎地域自立促進計画」も策定したところです。

新市になって高齢化率が31%になり、県内有数の少子高齢化地域になりました。そんな私たちの地域特性を正面から捉えて、これを地域ごとに福祉サイドで進めていくための「地域福祉計画」を作成することにもしています。地域福祉計画は各地域の特性を生かし、地域の役割をきちんと示すもので、これまで培ってきたそれぞれの生活習慣や風習、伝統といったものを高齢福祉や幼児教育に取り込んでいき、それをしっかりとクロスアップさせるものです。

国道19号に接続する道路の計画もありましたが、山陰本線を横断することになると高低差があるなど困難なことから、江の川沿いの道路を利用して、仙崎・三隅方面への出口を検討しています。

生活バスの運行継続と低料金化の実現をお願いします

市内には3つのバス事業者が運行をしていますが、このバス路線を維持するために年間約8千万円の補助金を支出しています。このままの状態では確実に赤字補填が増えていきますので、現在、「長門市バス路線検討委員会」を立ち上げ、公共性や福祉性を考慮しながら「これからのバス運行のあり方」について検討いただいております。平成18年度内に方向性を出すこととしています。

県道下関長門線の早期改良をお願いします

給食センターの整備計画を示してほしい

現在、学校給食は自校方式、親子方式、センター方式と3つの方法で行っています。これをどうするかということ、教育委員会内に「長門市学校給食施設整備検討委員会」をつくらせて協議しています。検討委員会での結果を尊重して計画を定めていきますが、整備にあたっては安心・安全が絶対条件ですので、これを一番念頭に置いておきたいと思えます。

旧日置町、旧油谷町においては、過疎地域の指定を受けていましたが、新市になり長門市全域が過疎地域の指定になりました。その指定を受けたことで、いろいろな事

▲安心・安全を第一に考えて整備していきます



# まちづくり懇談会 報告

## 市内16会場で活発な意見交換

### 新市のまちづくりについて

「豊饒の海と大地に笑顔行き交う未来のまち」に向けて、市民の皆さんのご意見やご要望を直接お聴きする「まちづくり懇談会」を10月11日の伊上地区を皮切りに、11月24日の俵山地区まで市内16会場で開催し、多くのご参加をいただきました。新市のまちづくりを進めていく上で貴重なご意見をいただき、大変有意義な懇談会になりました。心からお礼申し上げます。

3月22日に合併をして早いもので7カ月が経過し、またその直後に行われた選挙において初代市長に就任させていただき、半年以上が経過しました。私たちは合併という手法により新たな地域づくりをしようということ、旧1市3町が合併をして新市をスタートさせました。今までは各市町それぞれで事業の取り組み方やまちづくりの手法に特色があったわけですが、これからは一つの自治体組織として事業を進めていくことになりました。

懇談会では松林市長が新しいまちづくりへの取り組みについて説明を行い、市の担当者が「平成17年度の主要施策」と「各地区の主要事業」について説明しました。引き続き行われた参加者との意見交換会では、各地区で懸案となっている課題をはじめ、新市のまちづくりに関する提言など幅広い意見が交換されました。

そのような中で、それぞれの事業や行政業務がスムーズに移行できるのか、うまく機能していくのか心配もありましたが、何とかこ

これまで大きな支障もなく行政業務の統一化をスムーズにやってくれたのではないかと思っています。これからは合併前に作成した「新市建設計画」を実行しながらまちづくりを進めていくわけですが、総合的・具体的なまちづくりの指針ということで、現在「長門市総合計画」を作成しています。また、私たちが合併をした大きな目的に、財政力の強化と効率的な行政運営およびそれにあつた組織の改革を行うということがあります。これを確実に進めていくために「行政改革大綱」も作成しているところで

観光地づくりの推進

**問** 金子みすゞ記念館や香月泰男美術館などの観光施設を連携させて観光客の増加を図ってはどうか

**答** 現在、市全体の観光ルートの見直しを計画していますが、市内にある美術館、記念館の共通入館券を発行することも検討しています。特に金子みすゞ記念館と香月泰男美術館は全国から注目を集めており、連携を強めて全国発信していきたいと考えています。



▲観光施設を連携して観光客増加を

廃校舎の利活用

**問** 廃校となつている学校施設の有効利用について

**答** 油谷地区には廃校となつた学校施設として川尻小、文洋小、大平小、油谷中があります。文洋小については棚田とあわせた活用が考えられますし、油谷中は便利などところがありますので、福祉の拠点や高齢者の作業所としても使えるかと思えます。廃校舎の跡地利用についてはす

その他

**問** 今後もまちづくりについて意見を聞く場を設けてほしい

**答** 「まちづくり懇談会」はできれば1年に1回、定期的にやっけていきたいと思います。また、「こんにちは市長室」の方も引き続き開催していくつもりです。



▲市民の声を市政に

**問** 職員の定員削減に対する考え方について

**答** 退職者に対して新規採用を抑えていく方法で削減していきます。現在作成している「長門市行政改革大綱」の中で具体的な数字を示していきますが、10年の目安を立てて着実に実行していくこととなります。

**問** 総合支所の権限を強化してはどうですか

**答** 総合支所の権限は多少本庁機能の中に組み込まれている部分もあるかとは思いますが、基本的には管理部門を除き、その他の機能は各総合支所に残しています。事業的なものや政策判断を要す

べてを一律でなく地域ごとに有効的な利用方法があると思えますので、行政側からしっかりと計画を立てて有効活用を図っていきます。

生きがいづくりの促進

**問** 旧長門市では敬老会を地区別に開催していましたが、従来どおりの開催方法に戻してはどうでしょうか

**答** 旧長門市では社会福祉協議会に委託をしていますが、今年から市が直接開催することになりました。地区間の交流を一つの目的として一カ所で開催したのですが、今後はいろいろなご意見等を参考に、改善していきたいと思っています。

一体的な景観の形成

**問** 棚田をどのように保全していくのでしょうか

**答** 棚田については、農地保全、景観保全、そして国土保全という3面から考えていかなければならないと思います。まず農地保全としてどれくらい行政が支援できるか検討したいと思います。また農地としての保全が難しい状況もありますが、文化的景観としての保全や地すべり対策等の国土保全の面から棚田保全に取り組んでいくつもりです。

るものは本庁で判断することもありますが、基本的に地域に関わることは総合支所で対処できるようにしています。できるだけ総合支所で決裁、解決できるように方向へもっていきたいと思います。

**問** 携帯式のタバコの吸い殻入れを配布して街をきれいにしたい

**答** タバコに限らずゴミのポイ捨てなどしないようにいろいろな啓発活動をしていきます。携帯式吸い殻入れの配布についても検討させていただきます。

**問** 文化財の保護・保存事業を実施してほしい

**答** 市内にはたくさん文化財があり、現在、整理をしています。特に向津具地区については相当地の埋蔵文化が手つかずのまま残っていると聞いています。このような古墳群の発掘・保存を計画的に取り組む必要があると思います。

**問** 老人クラブや自主運営組織への補助制度を充実させてほしい

**答** 各団体等に市が補助金を出していますが、現在、旧市町の考え方に基づいて支出されていますので、新市として補助金の考え方を統一するために17・18年度の2カ年かけて補助金全体の見直しを行います。その中で皆さんのご意見を参考

**問** 仙崎のまちなみに大正時代の面影を残してはどうでしょうか

**答** 仙崎は「過去に誇りを持つ」という観点からすれば素晴らしい財産があると思えます。金子みすゞをはじめ引揚港としての歴史、また近代捕鯨発祥の地でもあります。そうした時代の面影を仙崎のまちを歩いたら感じられるようにしていくことは大事だと思います。その一つのヒントに文化的景観という文化庁の取り組みがあります。これがまちなみ保存にも適用できる場所があるか調査しているところです。

6次産業づくりの推進

**問** 若者が働ける場をつくり、若者定住を図ってほしい

**答** 産業づくりということでは若者定住も含めて6次産業という言葉を使っていますが、これは1次産業を2次、3次と絡ませて、あるいは逆に3次産業を1次、2次と絡ませて考えてみようというものです。具体的には共通する産業基盤である1次産業について、ブランドづくりや市場づくりを行い、しっかりと売れるものを作る体制を整えていかなければならないと思います。そこから若者定住につながるのではないかと思います。また、企業誘致についても工場適地は決して無くはないと考えて

にしなから、統一した基準の下に補助金のあり方を検討していききたいと思えます。

**問** 行政からの配布物が多いので効率的な配布方法を

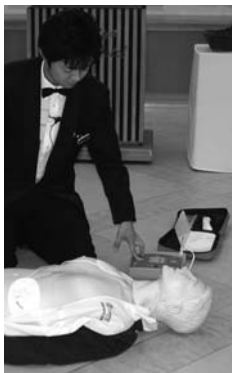
**答** できるだけ広報に掲載した内容に別印刷して配布しないように庁内で調整をし、効率的な配布方法に努めます。

**問** 市の活性化のために道の駅を建設してほしい

**答** 道の駅は経済活性化の観点からも効果があると思えます。現在、どの場所にといい具体的な話は出ていませんが、検討は常にしていきたいと思えます。

**問** AED(自動体外式除細動器)を総合支所、出張所単位に設置してほしい

**答** AEDは心室細動で倒れた人への迅速な救命処置として大きな威力を発揮するものと注目されています。総合支所や出張所など人が集まりやすいところについては、早いうちに具体的な数値等を示しながら配備していきます。



▲心停止の救命措置に威力を発揮するAED

います。当面、地場産業も広域的に見て、若い人たちが取り付きやすいような産業の仕組みづくりをしていけたらと思いますし、庁内でプロジェクトチームをつくるつもりでもあります。

情報通信網の整備

**問** 油谷地区ケーブルテレビ事業の計画を示してほしい

**答** ハード面の整備については、17年度に県事業で幹線を、18年度に一部幹線と市の単独事業で支線を整備する計画です。開局予定は19年度なるべく早い時期を予定しています。18年の夏頃にはそれぞれの自治会単位で説明会を開催し、受益者負担の説明や加入申込み等の手続きに入りたいと考えています。

循環型社会の形成

**問** 油谷地区の農業集落排水事業の工事計画を示してほしい

**答** 油谷地区の下水道整備は、当初の計画では平成19年度で完成をさせる計画でしたが、計画通りに国の予算がつかなかったことが原因で少し遅れております。限られた予算の中で一つ一つ着手していかなければならないのですが、まずは中央区から整備し、他の地域も急いで整備していきます。

ご意見・ご要望等

お寄せいただきました貴重なご意見やご提言は、直ちに解決できるもの、また、検討を要するものや即座に対応することが困難な問題もありましたが、庁内で十分検討し、少しでも皆さまのご期待にお応えできるよう努力したいと考えております。

ご要望、ご提言の内容などは次のとおりです。

- ・生活関連道路整備 25件
- ・観光地/まちなみづくり 17件
- ・福祉/生きがいづくり 12件
- ・下水道事業整備 8件
- ・防災対策 8件
- ・若者定住対策 8件
- ・生活バス路線整備 7件
- ・廃校舎利活用 6件
- ・交通安全対策 6件
- ・文化事業/イベント関係 6件
- ・市民サービス 6件
- ・急傾斜対策 5件
- ・産業づくり/企業誘致 5件
- ・漁港/河川整備 5件
- ・ゴミ対策 5件
- ・生活排水路整備 4件
- ・ケーブルテレビ事業整備 4件
- ・棚田保全 4件
- ・公営住宅整備 2件
- ・危険ため池整備 2件
- ・その他 50件
- 合計 195件